

No.260  
1985年7月 第1号発行  
2007 February

平成19年

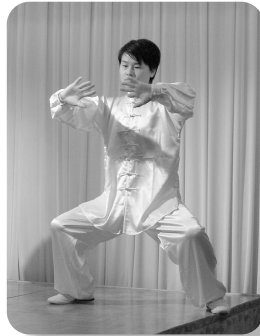
# 2月 波紋

PUBUSHER: 森松株式会社  
EDITOR: 小坂美香



今年も皆様のご協力により、無事に信念会を終わることができました。昨年、今年と2年連続の幹事に任命されて行いましたが、お客様も喜んで帰って頂いたようで、とてもうれしく思っております。

昨年に続き方さんの太極拳演舞、今年は昨年と違う型を演舞して頂き非常に流れが美しい、優雅な太極拳を見せて頂きました。その後、方先生指導の下、参加者全員で基本的な型を行いましたけどどう見ても違うんじゃない?とか、足上がってない・手も上がらないよ 等々、多少お酒も入っており、愉快的太極拳になってしまいました。酒が入る前にやってもらえばもっとうまくできたのに…との意見がありましたので、来年は乾杯の後



## 信念会



すぐに行きますので、1年かけて柔軟運動を行っておいて下さいね。また、これが無くてははじまらない丸喜化学工業(株)佐々木部長の民謡で、座は一段と盛り上がり笑顔のうちに無事終了する事ができました。また来年も笑顔で信念会を迎えられるよう、1年間がんばっていきたいと思います。どうもありがとうございました。

幹事 加藤雅昭 (営業部)

### 『存続できる企業』

社長 森 直樹



冬らしい天気が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。最近では就寝前に加湿機を寝室に設置しております。お陰で以前朝起きたときに痛んだ喉が、設置後はほとんど痛むこともありません。さて、加湿機とは関係ありませんが、森松の関係するところの製造業は、徐々に海外の影響を受けております。大口の商品は海外へと移ってしまったりもしておりますし、手間のかかる商品ならば海外で作った方がいいんじゃないか?と海外の加工先へと問い合わせることもあります。産業の空洞化という言葉も最近ではあまり聞かれなくなりましたが、事実としてそれだけ安いモノが浸透してきており、日本国内での製造業が徐々に国内に存在しているだけの価値を求められていることと思っております。また、森松の機能は問屋であり、メーカーでもありますが、そういった区分けも現在ではかなり曖昧になってきているのが現状でしょう。森松もここに存在し続けるに十分な価値を、今後どのように発揮していけるかを追求していくことが長期的に求められているわけです。いずれ、アスクルのように発注翌日に商品が届くことと海外との距離がなくなることも考えられます。そのような時代にも存続していけるだけの価値を發揮していきけるよう、より皆様にとって価値ある企業を目指して行きます。

naoki@morimatsu.net

2007年 2月

の予定

|           |                      |           |          |          |               |           |         |           |         |         |                 |        |
|-----------|----------------------|-----------|----------|----------|---------------|-----------|---------|-----------|---------|---------|-----------------|--------|
| 28日 (水)   | 25日 (日)              | 24日 (土)   | 23日 (金)  | 22日 (木)  | 19日 (月)       | 18日 (日)   | 17日 (土) | 15日 (木)   | 11日 (日) | 10日 (土) | 5日 (月)          | 3日 (土) |
| 藤木方子さん誕生日 | 名古屋掃除に学ぶ会<br>5時40分集合 | 光田昭男さん誕生日 | 生産会議 18時 | 経営会議 16時 | CS向上会議 15時10分 | 牧野光昌さん誕生日 | 第三土曜休み  | 村田恒夫さん誕生日 | 建国記念の日  | 第二土曜休み  | 誕生日会(1・2月生まれの方) | 第一土曜休み |



### パートさんコーナー 「温泉旅行」

お正月に家族で吉良へ一泊の温泉旅行に行ってきました。子供達2人は温泉にはあまり興味がなかったようですが、食事を「伊勢海老づくし」にするという条件で楽しみにしてくれました。2時間もあれば到着できる場所で、近くも無く遠くも無い距離だったので子供達も車中飽きる事が無かったようです。ホテルに着いて最初に露天風呂に入ったのですが、その露天風呂がホテルから一度外に出て階段を数十段も昇らないといけな場所にあったので、入るまでが大変でした。しかし、露天風呂から見える景色は絶景で昇ってきた階段のことは忘れるくらいでした。入浴後思い出してしまいました…。露天風呂の次は大浴場に入りました。そこに「エス



藤木方子 (製造部)

エソルト」という塩が置いてあったので、手のひらに乗せて手と足をマッサージしたらつるつるになりました。思わず子供と一緒に何回もやっしまいました。お勧めです。食事に関しても子供達は大変喜んでたくさん食べてくれて、主人と今回の温泉旅行は良かったねと美味しいお酒を飲み交わすことができました。毎年、家族で旅行へ行けたらいいなと思っておりました。また、昨年より要工場にて働かせて頂いて、とても楽しい職場なので、そんな皆様と飲み交わす機会があればいいのかなと思ひ、毎日働いております。

### 『中国のお正月』

王 真昉 (総務部)



私は今年、日本で七回目のお正月を過ごしました。その中で日本と中国のお正月は多くのところが違っているのを感じました。ここで中国のお正月の由来や言い方について簡単に紹介したいと思います。周知のように、中国では正月と言うと、旧暦の正月だけを指し西暦の年始の月はただ1月といわれます。今の中国は日本と同じように、西暦つまり太陽暦を採用しているが、これは百年未満の歴史しかありません。1911年、清王朝の帝政終結とともに、中華民国が建てられました。その際、臨時大統領孫文が「夏正を行ひ、農時に順(したが)う所以なり」と西暦に従い、統計に便(べん)する所以なり」といい、西暦の1月1日を新年(元旦)、旧暦の正月1日(初)を春節(しゅんせつ)とそれぞれ決めました。それから中国人にとっては、二分化した新年と春節という節句を相次いで迎えるようになりました。正月の言い方については、もともと「正」は「正確」の「正」と同じ、中国語の第四声で「zheng」と読んでいましたが、紀元前221年に中国全土を統一して皇帝制度を建てた秦の始皇帝嬴政(えいせい)は、自分の名前「政」の発音を避けるために、同音字である「正」を平声である第二声の「zheng」という読み方と規定しました。その後、避諱(びたい)音、君主や尊者の実名の字を避けて直接に話したり、書いたりしないことと無関係に、中国人は依然として習慣的に正月をいう場合に「正」を「zheng」と言います。もちろん、お正月の習俗や歴史は各国によって違いますが、その民族的な伝統が各国の人々の心に深く根を下ろして、変わらないものだろう。異文化の勉強や知る事がかなり有意義なことだと改めて思いました。

# 読後感想文

## 「人を育てるトヨタの口ぐせ」

OJTソリューションズ編 著

村田恒夫 (総務部)

この本は、現場で受け継がれてきた「トヨタの口ぐせ」(トヨタの口ぐせ)が31例紹介され解説された内容で構成されています。

この本を読んで感じたことは、トヨタと言えば、「カイゼン」「ジャスト・イン・タイム」が即、頭に浮かびますが、安全に関しても、日常の「ヒヤッとしたこと」「ハッとしたこと」を見逃さず、みんなでその情報を共有し、事故を防いだり、会社として守るべきルールは、さまざまな場面・手段を利用して社員一人ひとりに徹底させる等、世界の「トヨタ」を再認識しました。その他、印象に残った例として、「動かないものは捨てる、どんどん捨てる」(「要るもの」と「要らないもの」判断基準をどう定めるか)。一つの例として、次のようなルールを設ける。

- ①15日間(もしくは1週間)使わなかったら、一時置きにする。
- ②さらに15日(もしくは1週間)使わなかったら、捨てることにする。
- ③実際に捨てる前に、その「もの」についての情報を社内に流し、それを使いたい部署がないかどうかを確認する。
- ④確認の期限が切れたら、いよいよ捨てる。

整理・整頓の苦手な私ですが、自分なりにルールを設けて実行できればと思えました。

この本を読んで、トヨタの強さを再認識することが出来ました。

## 「トヨタの正体」

横田 一/佐高 信 著

光田昭男 (企画営業部)

トヨタの前に赤信号はないのか。この本は、マスコミが書けないトヨタの事が書かれている。

私自身の売上げの1/2は、トヨタ関連企業にお世話になっており、マスコミの気持ちが解かる。(レガシに乗っていますが)広告宣伝費が日本一、メディアでもトヨタの都合の悪い記事は消され、批判記事が出ないのは広告を引き上げられるのが恐いからだ。

2004年5月、安全であるはずのトヨタの工場内で事件が起きている。射出成型機内での作業中に機械が動いて圧死している。スイッチ入れるな→札(タフニール2使用)本に書かれている製品を納入していると思うと複雑な思いになってしまった。(現在7800枚受注しています)勝てば官軍、トヨタの批判は続くと思う…

## 「憧れの車」

(PART II)

伊藤雅典 (製造部)



前回の波紋掲載時に憧れの車という事で、プロジェクト206のことを書きましたが、実は、昨年の暮れに買ってしまった。S16というタイプで20000cc(1377HP・5速マニュアル)です。もちろん新車ではなく中古車です。新車だと車両価格で250万円ほどします。買ったばかりというのには、ディーラーにて修理中です。プロジェクトは電気系統が弱いと聞いていましたが、確かにその通りでした。空調ランプ・灰皿灯・ダッシュボードなどの電気がきません。その上、最悪なことに燃料噴射装置が具合悪く、アイドリング中にエンジンが止まってしまいます。一応、6ヶ月間の保証付きの為、そちらの方は無償にて部品交換してもらえそうですが、それに比べると日本車は本当に故障しないと思えます。身を持って体験をしました。

以前、軽自動車に10年くらい(16万キロ)乗っていた時、耐久部品はそれなりに交換しましたが、電気系統で交換した部品と言えば、バッテリーと電球くらいでした。やはり、日本と外国とでは物作りに対する考え方が違うのでしょうか、それとも車を作る時にお金をかける所が違うのでしょうか。確かに日本車は安くて、壊れないが格好悪いと言ってしまうことを車評論家が言っていたのを聞いたことがあります。私も同意です。いくら生産台数が多すぎて世界で「流」と言われるまでは、ある意味まだまだ遠いような気がします。

そんな訳で、出来の悪い子ほど何とかで、可愛がって行きたいと思っています。

## 「母の替りたなごめん」 心がける年



黒松康郎 (東京オフィス)

年が明けても1ヶ月。年末は最近では珍しいのかも知れませんが、義父の家で餅つきをしました。体力不足を更に自覚しました。年が明けて、毎日ビールを飲んで、いたしな記憶にない正月でした。そんな年末テレビを見ていて、名古屋出身の尼僧さんが説いていました。名古屋出身ということだけで耳が反応してしまう最近なのですが、結構頭に残る事をお話されていました。

例えは①返事が大切：子供に「お父さんお母さん」と呼ばれたら「なに」と返事したら駄目。「はい」と言いなさい。②挨拶が大切：家族が家庭で出会っても挨拶をする。起きたら当然「おはよう」。③あとかたづけが大切：家が汚いとこ(こ)は階段に荷物を置いておく。必ず家庭いごきがある。④1週間使わないものは机の中に入れない。⑤1ヶ月使わないものは押入れに入れる。⑥3ヶ月使わないものは、納戸や倉庫に入れる。⑦それでも使わないものは捨てなさい。⑧捨てられなければ奥さんに渡しなさい、即捨ててください。⑨ようないじめがなくならない家庭環境にも役に立つのかと思ってしまう。一番印象に残ったのは、人間大切なものは、個付いている。目はうつ、耳もうつ、口と鼻はうつである。目は口ほどにものを言おうとか、目で言葉が語ることが出来る。耳は当然人の話を良く聞くためにある。口は災の元。口はつしまあかん。口がうつあたらたさん食ってぶくぶく太る。口がうつあたら大阪のおばちゃん。想像したら怖い。鼻はなくては困るけど、うはいらなかな、相手の目を見る。自分の目で相手の態度を見て話を聞く。相手の目には鼻がないかな。自分勝手にしやがるのはお互いどうかな。余計な事は言わないのが良いのかな。目と耳を多少は臭いで相手の印象が残るんかなと思えます。

上記はテレビを見た私の勝手記憶なので、ここではありませんが、小林良正さんという人でした。こういって聞いて、目でネット確認して、いづれも大切なのである。いづれも勉強する気持ちも持ちたい。家庭も平和で仕事も充実して、子供も元気である。始まったばかりの今年もそうあってほしいと願っています。

## 「着なして」 静電気対策?



安井浩二 (企画営業部)

冬になるとやっかひなのが、静電気ですね。車や家のドアをあけると、衣服を脱ぐときなど、あのパチパチとくる静電気は、なぜ冬に起こりやすいのでしょうか。湿度と衣服の組合せを考えてみましょう。

まず、夏は汗をかきやすく、湿度も高いため、人体にたまった静電気は、電気を通しやすく、水分を伝わってすぐに放電するため、あまりに、いのです。しかし、冬は逆に乾燥しているため、電気が動きにくく、物体や人体にたまりやすくなります。このたまった静電気が金属など電気を通しやすい物体に触れると、一気に放電し、パチパチとくる訳です。(湿度が20%以下になると静電気が発生しやすくなります)また、衣服を脱ぐときのパチパチは衣服どうしの摩擦によって起きる静電気の原因です。しかし、衣服の素材の性質と組合せを知ることによって、起きにくくすることが出来ます。

衣服の素材には帯電(電気がたまった状態)しやすい物と、そうでないものがあります。また、帯電しやすい物では、プラスの電気、マイナスの電気をそれぞれ帯びやすい物があるので覚えておきましょう。ちなみに、(1)を帯びやすい繊維の順は：頭髮や羊毛、ウール、ナイロン、絹。(2)を帯びやすい繊維の順は：ポリウレタン、アクリル、ポリエステル。(1)も(2)も強くない繊維は：麻、綿、レーヨン。静電気は、素材の組合せによる摩擦によって(1)と(2)が離れているほど発生しやすくなります。例えは、フリースのジャケット(ポリエステル)とウール(1)のセーターの組合せよりもアクリル(2)セーターの方が、静電気の発生が少なくなります。

衣服の組合せは、素材の性質を確かめて帯電性質が似たものを重ねるとがポイントです。また、麻や綿などの天然素材は保水性に優れているため、繊維や繊維と比較して静電気が起きにくく、洗濯の時に柔軟剤を使うのも、柔軟剤の成分が水分を吸収して滑らかになるので効果的です。ちょっと豆知識で、いやなパチパチを軽減させてみてはいかがでしょうか？

## 「あゝ」

西垣浩司 (製造部)



昨年は、いつも何かにせき立てられて、日々を過ごしたように感じています。時間の使い方が下手なものでしょうか？要領が悪いのでしょうか？まったくゆとりがなく、いつもイライラしながら仕事をしていたように思います。(タバコがその数値を表しているように！)

一日は二十四時間、これは変えられませんが、二十六時間に増えたとしてもゆとりが生まれるかと言うと私の場合やはり無理難題。その分時間を無駄に使って後であくせくする結末。ゆとりは、時間との問題で考えるのではなく、仕事の内容・順番・後工程を踏まえて、作業を済ませてゆとりを持って終わる。(段取り)そのためには、今日の仕事は今日中に片付ける。面倒で手のかかる仕事を先に済ませてしまう。面倒な仕事を後まわしにして、時間が遅くなつてからやっていると、つい次の日にまわしてしまおうと仕事がどんどん溜まっていき、途中で投げたてしまふようになる。これではゆとりがあるのではなく、ストレスが溜まるだけになり、日々の計画をしっかりと、時間内に終わるようにする。

仕事は段取りで80%決まる!!頑張ろう。そうすれば、例えは何が起ころうとも「この人ならなんとかなるだろう」と思わせてくれるような柔軟性と強さを持った人(目標)。おそらく、自身が大きなものに支えられていると思う。会社・上司・部下・その他仕事に関する人々に、それが「自信」につながる。

結局自分に自信を持ってないと、ゆとりを持つのはなかなか難しいと思う。